

# 景況調査

報告書 NO. 76

平成29年 7月～9月 実績  
平成29年 10月～12月 見通し



蒲郡商工会議所  
中小企業相談所

## 平成29年度第2四半期(H29. 7～9月)景況調査

1. 調査時点 平成29年9月7日～25日

2. 調査対象

(1)対象地区 蒲郡市内  
 (2)対象(回答)企業 94企業、7団体＝三河織物工業(協)、中部繊維ロープ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡地区旅館組合、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法

聞き取り調査によるアンケート調査

4. 回答企業の内訳

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	45 (3)	10 (2)	14 (1)	16	8 (1)	8	101 (7)

※ ( )は団体

5. 概況

**全業種総合判断DI値(当期実績)**は、前期比で△8.9、前期実績(4～6月△4.4)に比較すると4.5ポイントの下降、悪化の傾向が見られ、前年同期比では△2.0、前期実績(4～6月△2.7)と比較すると0.7ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**売上DI値**については、前期比で△1.0ポイント、前期実績(4～6月△14.4)と比較すると13.4ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**収益DI値**については前期比で△8.0、前期実績(4～6月△8.9)と比較すると0.9ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**総合判断来期(H29.10～12月)見通し**については0.0、今期の実績(全業種(当期実績)前期比 △8.9)と比較すると8.9ポイントの上昇であった。

「**製造業**」のうち食料品は前年同期・前期比ともに総合判断で業況は下降した。織物は、多重織りガーゼ素材は受注安定もやや落ち着きを見せ始めた。ジャカードは深刻な状況。漁網・ロープは8月末時点の対前年比では販売数量、販売金額ともに1割程度減少。特に造船船舶関係は前年比2割強減少。鉄工のうち**工作機械関係**の受注動向は前年同月比で2～3割の増加傾向が続く。国内・海外とも堅調。**自動車関係**はトヨタ国内日当たり生産4～6月期に続き1万2千台前後で推移。化学は国内向けは堅調。輸出は中国向けは堅調も他地域で弱含み。**プラスチック** 値上傾向にあった原材料相場が一服。利益率がやや回復。

「**建設業**」は、売上は上昇も収益・総合は下降傾向が見られた。

「**卸売業**」のうち、**繊維卸**は<産業資材>景気動向・個人消費ともに力強さに欠けた。8月の悪天候の影響もあり荷動きの悪い。<インテリア>8月の天候不順の影響はあったが、通期では比較的安定。<アパレル>夏の長雨による天候不順で売上が不振。動きの良いものは細番手高密度・多重ガーゼ等。先染ビエラ物素材のカジュアルウェア向けも動きあり(繊維部会)

「**小売業**」は、低調な消費意欲が変わらず、特に高価格帯商品の荷動きが鈍い。**石油等その他小売**は、原油価格について、OPEC協調減産や中東の地政学リスク等が下支え要因となり、小幅ながら需要が供給を上回ったこともあって変動は少なく50ドル台を中心に推移した。

「**サービス業**」のうち**旅館関係**は7～9月の宿泊者数は、インバウンドの減少を国内旅行が増加する形で概ね前年並み。インバウンドは団体客が減少し、個人旅行が増えている(FIT化)

「**運輸通信業**」**貨物輸送**では完成車輸出は月間平均10,000台と好調。鋼材移入・海上コンテナ貨物輸出も堅調。**旅客関係**では貸切バスは前年並みに稼働。バスツアーは減少傾向にあり、マイカー利用でのホテル予約などが増加傾向

**設備投資状況**は、38事業所(57件)で設備投資が実施され、生産設備他に投資された。来期は34事業所(49件)が設備投資を計画している。

**経営上の問題点**では売上の停滞・減少、利幅の縮小、人手不足、競争激化、原材料(燃料)高が項目別で上位を占めていた。

**当地区において**

平成29年度第二期の全体では、前年同期比・前期比ともに変動は少なく、概ね横バイの傾向となった。緩やかな回復が続くとされる国内景気の影響は、当地区において限定的であったが、業種別では製造業・サービス業・運輸通信業が好調の反面、建設業・卸売業・小売業は不調であった。地方における個人消費がの停滞感が長引く状況で、本所では平成29年度以降の新アクションプランの実行を通じて、地域経済の持続的発展を図る所存である。

**全業種(当期実績)**

(DI 単位:%)

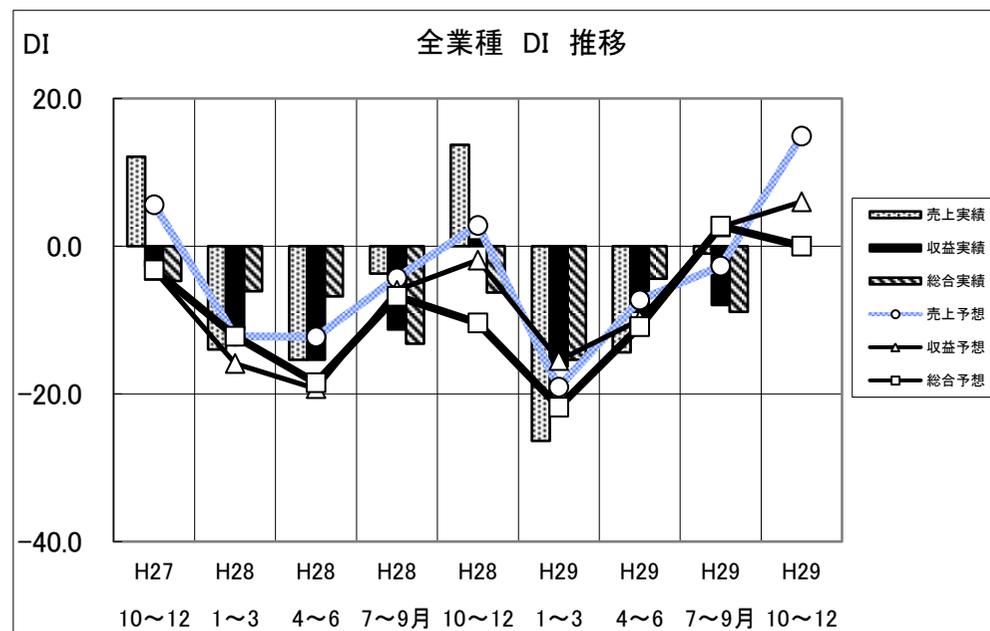
<全業種 各項目期別推移>

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成28年7月～9月 に比べて	前期比 平成29年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成29年10月～12月 の見通し		売上		収益		総合判断		
					前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し
①生産額・売上額	0.0	-1.0	14.9	H28. 7～9月実績	-14.2	-3.7	-15.1	-11.3	-15.1	-13.2	-10.4
②製品・商品在庫	-5.0	-5.0	-2.0	H28. 10～12月実績	-7.2	13.7	-13.6	0.9	-14.5	-6.3	-21.8
③資金繰り	-4.0	-7.0	-2.0	H29. 1～3月実績	-9.1	-26.4	-9.1	-16.3	-13.7	-15.4	-10.9
④採算(収益)	-8.9	-8.0	6.0	H29. 4～6月実績	-8.0	-14.4	-1.8	-8.9	-2.7	-4.4	2.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	16.8	1.0	6.9	H29. 7～9月実績	0.0	-1.0	-8.9	-8.0	-2.0	-8.9	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-2.0	-8.9	0.0								

【総合判断】

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲食)			
(織物)				(石油等その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物輸送・水運)			



<業況判断DIの推移>

	10~12月	H28.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H29.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	12.1	-14.0	-15.4	-3.7	13.7	-26.4	-14.4	-1.0	14.9
収益	-2.8	-11.4	-15.4	-11.3	0.9	-16.3	-8.9	-8.0	6.0
総合	-4.7	-6.1	-6.8	-13.2	-6.3	-15.4	-4.4	-8.9	0.0

◎DI (デフュージョン・インデックス 業況判断指数)について

DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%)=増加・良好などの割合-減少・悪化などの割合

(注)生産額・売上額 :DI=(増加)-(減少)

製品・商品在庫 :DI=(減少)-(増加)

資金繰り :DI=(好転)-(悪化)

採算(収益) :DI=(上昇)-(下降)

従業員数 :DI=(増加)-(減少)

業況(総合判断):DI=(好転)-(悪化)

DIが0より大 ⇒ 景気上向き

DIが0 ⇒ 景気横ばい

DIが0より小 ⇒ 景気下向き

(総合判断のDIの目安)

DI 50%以上



DI 6~49%



DI 5~-5%



DI -6~-49%



DI -50%以下



## 6. 業種別報告

### 製造業

売上DI値は△11.2、前期実績(4～6月期(8.0))に比して19.2ポイントの下降、収益DI値は△6.7、前期実績(4～6月期(14.0))に比して20.7ポイントの下降、総合判断DI値は△4.5、前期実績(4～6月期(18.0))に比して22.5ポイントの下降と、総合・売上・収益ともに下降となった。

向こう3カ月の見通し 総合は僅かに水面下も、売上・収益は上昇の見通しとなっている。

### 製造業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成28年7月～9月 に比べて	前期比 平成29年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成29年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	8.9	-11.2	8.9
②製品・商品在庫	2.3	2.2	-2.2
③資金繰り	4.5	-6.7	-6.7
④採算(収益)	0.0	-6.7	4.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	28.9	4.4	8.9
⑥貴社の業況(総合判断)	11.1	-4.5	-2.3

### [食料品]

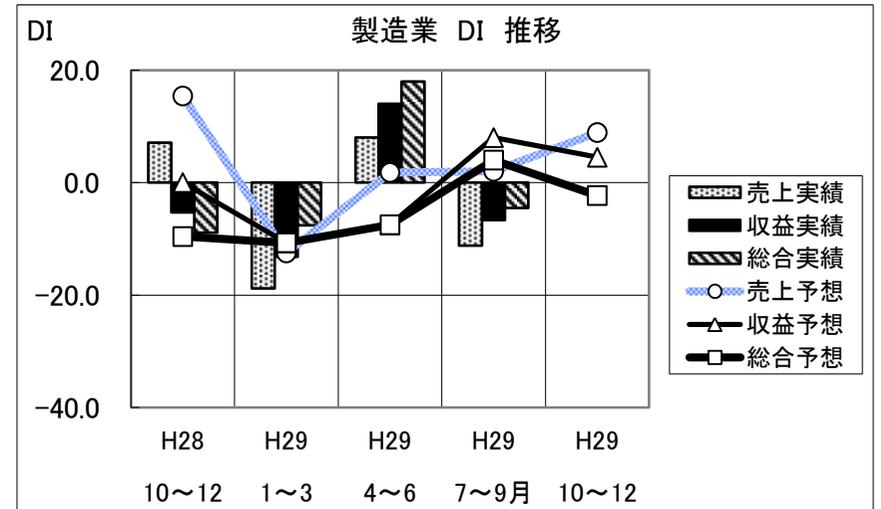
売上は前期比DI値は△33.3%と下降、前年同期比ではDI値33.3%と上昇。収益では、前期比DI値で△33.3%と下降、前年同期比では△16.6%と下降。総合判断では前期比DI値は△33.3%と下降、前年同期比はDI値16.6%と業況は下降となった。

向こう3ヶ月の見通し 年末の需要期を迎え、売上DI値66.7%、収益DI値33.3%、総合判断DI値16.7%と当期に比べて業況は好転する見通し。いかに消費者ニーズを捉えた商品を提供できるかが課題となっている。愛知県産小麦や三河湾産アサリ、東三河の農産物など地産食材を活用した商品展開に力を入れている企業が見られ、今後も地域性を売りにした商品開発の動きが期待される。

### (食料品)

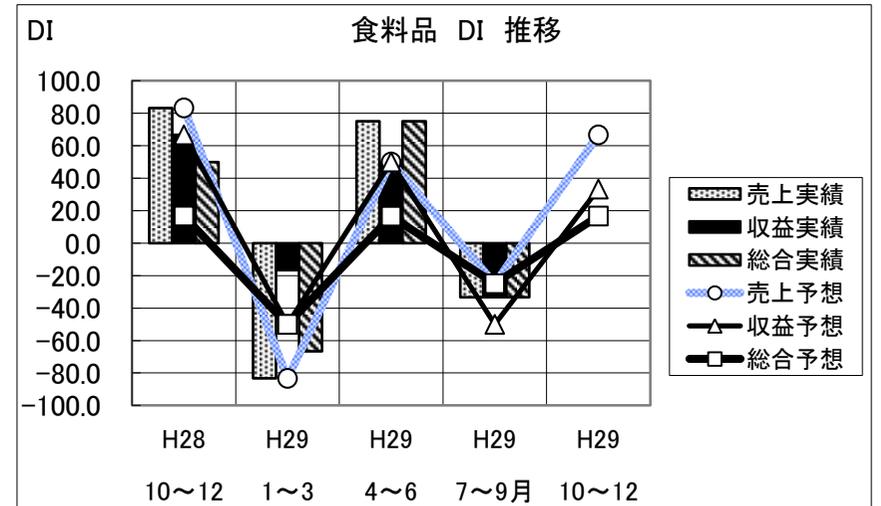
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成28年7月～9月 に比べて	前期比 平成29年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成29年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	33.3	-33.3	66.7
②製品・商品在庫	16.7	16.7	16.6
③資金繰り	0.0	-16.6	0.0
④採算(収益)	-16.6	-33.3	33.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	66.7	16.6	33.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-16.6	-33.3	16.7



### <業況判断DIの推移>

	10~12月	H29.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	7.1	-18.8	8.0	-11.2	8.9
収益	-5.3	-13.2	14.0	-6.7	4.5
総合	-8.9	-7.6	18.0	-4.5	-2.3



### <業況判断DIの推移>

	10~12月	H29.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	83.3	-83.3	75.0	-33.3	66.7
収益	66.7	-16.7	50.0	-33.3	33.3
総合	50.0	-66.7	75.0	-33.3	16.7

## 【織物】

寝装関係は、多重織りガーゼは安定した受注がある。インテリア向けジャカードカーテンは、深刻な状況が続いており、産業資材も苦戦している状況。

### 向こう3カ月の見通し

多重織りガーゼについては継続した受注が見込まれる。

### (織物)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成28年7月～9月 に比べて	前期比 平成29年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成29年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-25.0	-25.0	50.0
②製品・商品在庫	-25.0	-25.0	-25.0
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	-25.0	0.0	50.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	25.0	25.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	25.0	0.0	25.0

## 【漁網・ロープ】

8月末時点の対前年比では販売数量、販売金額ともに1割程度減少。特に造船船舶関係は前年比2割強の減少と厳しい状況となっている。

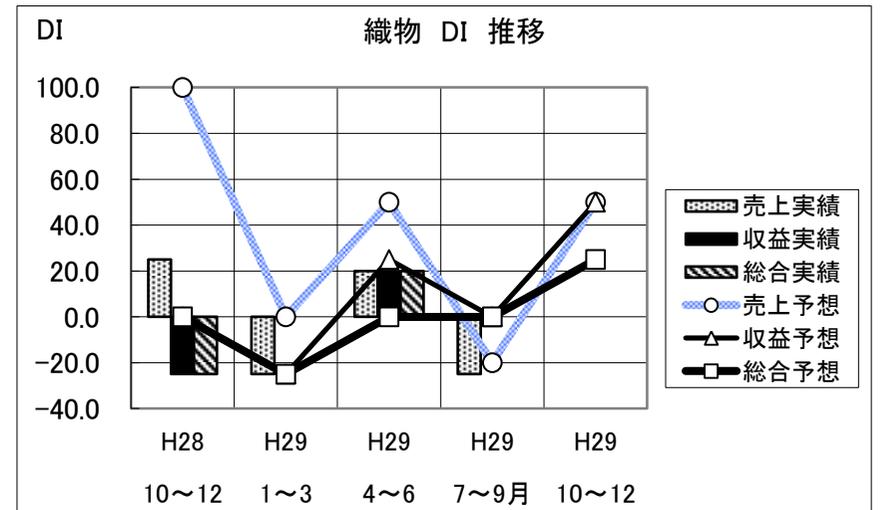
### 向こう3カ月の見通し

売上において前年比85～95%の見込み。(繊維ロープ部会)

### (漁網・ロープ)

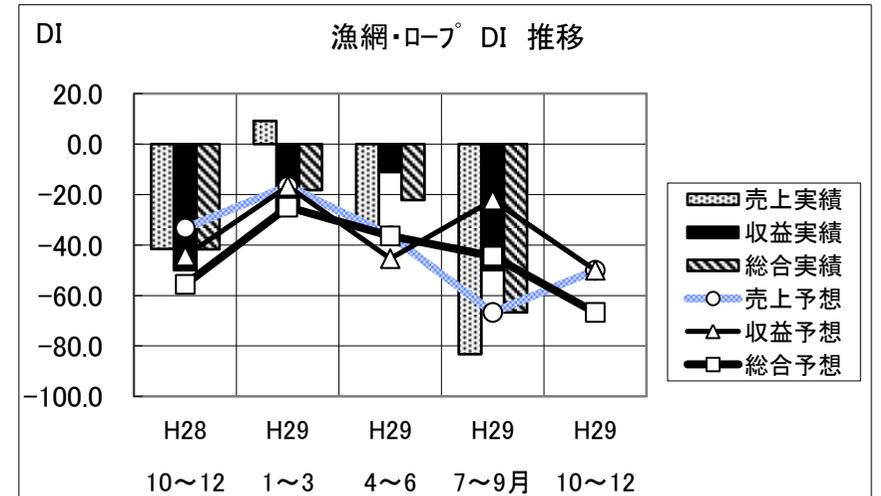
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成28年7月～9月 に比べて	前期比 平成29年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成29年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-83.3	-83.3	-50.0
②製品・商品在庫	-33.3	-33.3	-16.6
③資金繰り	-50.0	-50.0	-33.3
④採算(収益)	-33.3	-50.0	-50.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-50.0	-66.7	-66.7



### <業況判断DIの推移>

	10~12月	H29.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	25.0	-25.0	20.0	-25.0	50.0
収益	-25.0	0.0	20.0	0.0	50.0
総合	-25.0	0.0	20.0	0.0	25.0



### <業況判断DIの推移>

	10~12月	H29.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	-41.6	9.1	-33.4	-83.3	-50.0
収益	-50.0	-27.3	-11.1	-50.0	-50.0
総合	-41.7	-18.2	-22.2	-66.7	-66.7

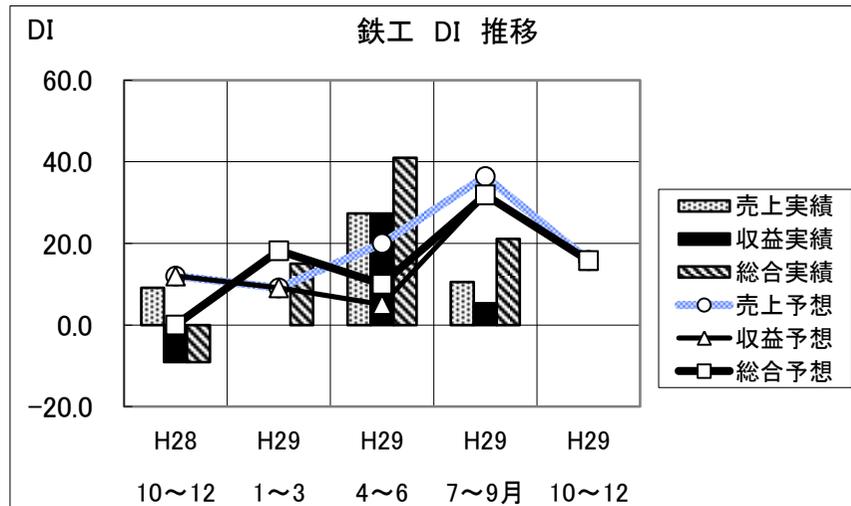
**[鉄工]**

＜工作機械関係＞ 国内生産の受注動向は、7月1,336億円、8月1,335億円、9月は1,490億円と、7～9月とも前年同月比で2割以上の増加傾向が続く。国内向けも対前年比を超えており、海外向けでは、東アジア・欧州向けの好調が続く。向こう3カ月の見通し 設備需要の回復を背景に強含みの推移が予測されている。

＜自動車部品関係＞ トヨタの国内日当たり生産は、4～6月期に続き1万2千台前後で推移。向こう3カ月の見通し 10～12月期は日当たり1万2千台後半での推移が予測されている。海外も北米・中国・アジアとも堅調な生産が続く見通し。(金属鉄工部会)

**(鉄工)** (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成28年7月～9月 に比べて	前期比 平成29年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成29年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	36.8	10.5	15.8
②製品・商品在庫	26.3	21.0	5.2
③資金繰り	21.0	10.5	0.0
④採算(収益)	15.8	5.3	15.8
⑤従業員数(含む臨時・パート)	36.8	0.0	5.2
⑥貴社の業況(総合判断)	36.8	21.1	15.8



＜業況判断DIの推移＞

	10～12月	H29.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
売上	9.1	0.0	27.3	10.5	15.8
収益	-9.1	0.0	27.3	5.3	15.8
総合	-9.1	15.0	41.0	21.1	15.8

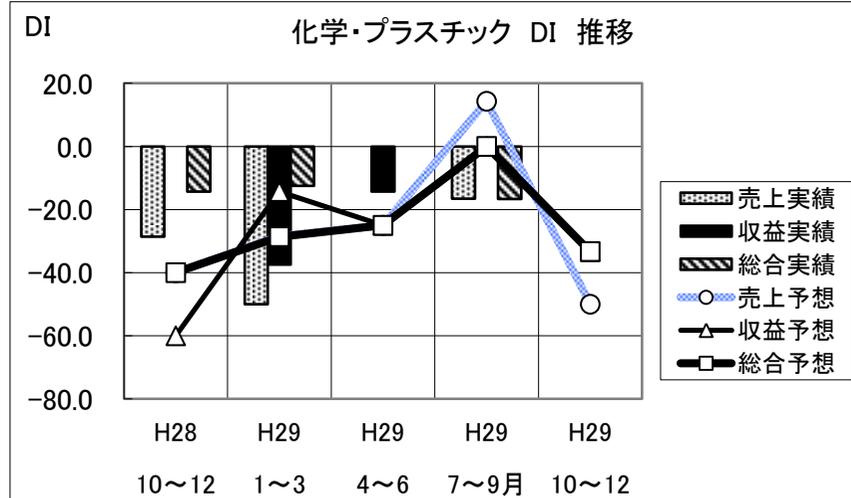
**[化学・プラスチック]**

＜化学工業＞ 国内向けは堅調。輸出は中国向けは堅調も他地域で弱含み。向こう3カ月の見通し 今期と同傾向の見込み。但し、売上・採算は為替動向による。

＜プラスチック＞ 値上傾向にあった原材料相場が一服。利益率がやや回復した。向こう3カ月の見通し 相場や為替等の影響による原材料価格の推移を見守り、必要に応じて価格転嫁を進めたい。(化学部会)

**(化学・プラスチック)** (DI 単位:%)

	前年同期比 平成28年7月～9月 に比べて	前期比 平成29年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成29年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	33.3	-16.6	-50.0
②製品・商品在庫	-16.7	0.0	-16.7
③資金繰り	0.0	-16.7	-16.7
④採算(収益)	16.7	0.0	-33.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	33.3	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-16.7	-16.7	-33.3



＜業況判断DIの推移＞

	10～12月	H29.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
売上	-28.6	-50.0	0.0	-16.6	-50.0
収益	0.0	-37.5	-14.3	0.0	-33.3
総合	-14.3	-12.5	0.0	-16.7	-33.3

## 建設業

売上DI値は10.0、前期実績4～6月期(△54.5)に比して64.5ポイントの上昇、収益DI値は△20.0、前期実績4～6月期(0.0)に比して20.0ポイントの下降、総合判断DI値は△20.0、前期実績4～6月期(△18.2)に比して1.8ポイントの下降。売上は上昇も収益・総合は下降傾向が見られた。

向こう3カ月の見通し 売上は上昇も、収益・総合は横バイの見通し。(建設部会)

## 建設業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成28年7月～9月 に比べて	前期比 平成29年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成29年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-20.0	10.0	10.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	10.0
③資金繰り	-20.0	-20.0	-10.0
④採算(収益)	-20.0	-20.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	-10.0	10.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-20.0	-20.0	0.0

## 卸売業

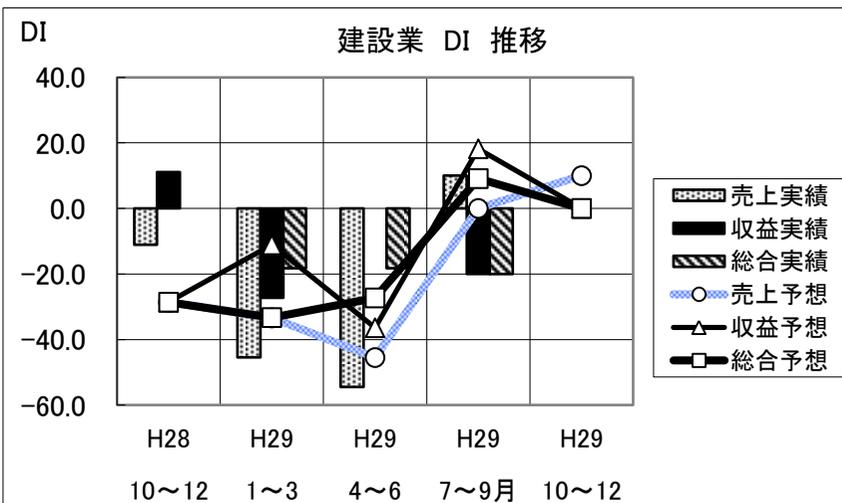
売上DI値は△7.2、前期実績4～6月期(12.5)に比して19.7ポイントの下降。収益DI値は△7.2、前期実績4～6月期(△18.7)に比して11.5ポイントの上昇、総合判断DI値は△14.3、前期実績4～6月期(△18.7)に比して4.4ポイントの上昇。収益・総合は数値が上昇するも、売上・収益・総合ともに水面下の厳しい状況。

向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合ともに下降の見込みである。

## 卸売業

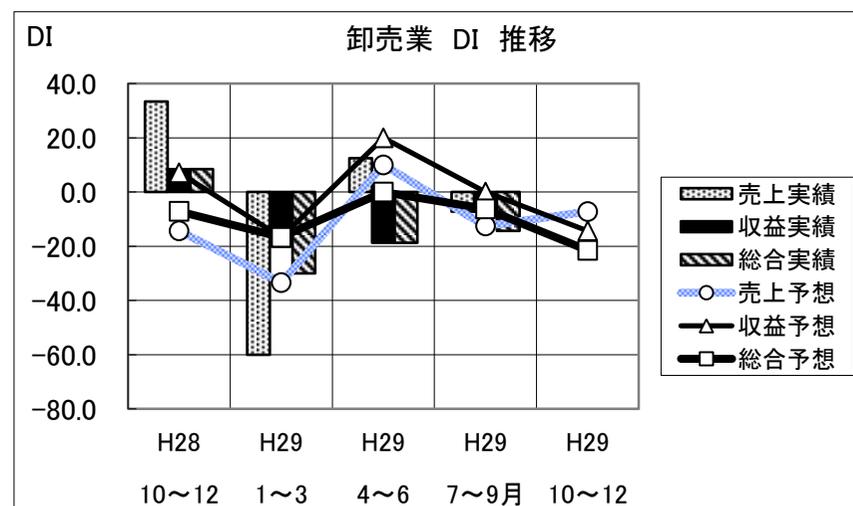
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成28年7月～9月 に比べて	前期比 平成29年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成29年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-28.6	-7.2	-7.2
②製品・商品在庫	-35.7	-35.7	-14.3
③資金繰り	-21.4	-14.3	-14.3
④採算(収益)	-21.5	-7.2	-14.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	14.3	0.0	-14.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-21.4	-14.3	-21.5



### <業況判断DIの推移>

	10~12月	H29.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	-11.1	-45.4	-54.5	10.0	10.0
収益	11.1	-27.3	0.0	-20.0	0.0
総合	0.0	-18.2	-18.2	-20.0	0.0



### <業況判断DIの推移>

	10~12月	H29.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	33.4	-60.0	12.5	-7.2	-7.2
収益	8.4	-20.0	-18.7	-7.2	-14.3
総合	8.4	-30.0	-18.7	-14.3	-21.5

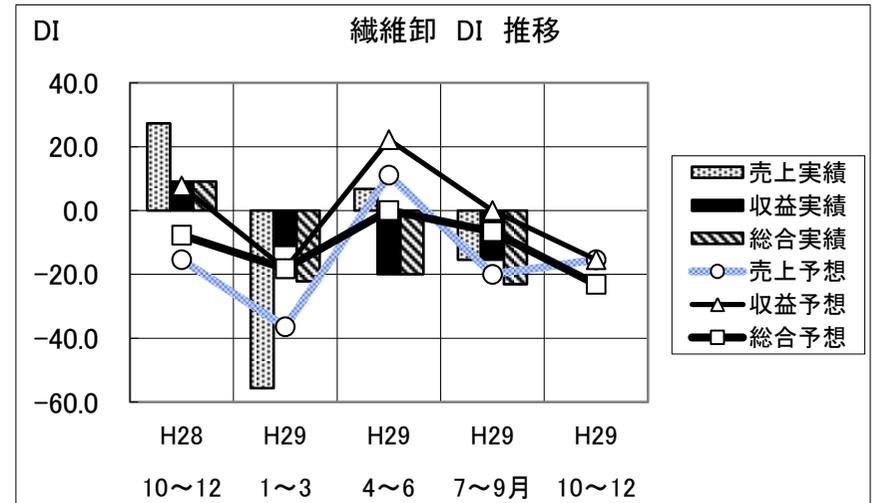
**【繊維卸】**

<産業資材>緩やかな回復基調が続いているとの景気判断ですが、内需に力強さがなく、景気も個人消費も伸びず、8月の悪天候の影響もあり荷動きの悪い状況。向こう3カ月の見通し 秋冬物商戦もいま一つ活気がなくシーズン終盤へ。先の見えない状況ですが顧客要望を叶えるよう必要な商品を迅速に手配したい。<インテリア>7~9月の売上は比較的安定。8月は悪天候の影響でシーズン品の荷動きが停滞。9月に入り状況は好転へ。向こう3カ月の見通し 9月末~10月に掛け新規商品の出荷が進む。在庫も12月に向け安定した内容で売上は順調の見込み。<アパレル>夏の長雨による天候不順で売上が不振。動きの良いものは細番手高密度・多重ガーゼ等。先染ビエラ物素材のカジュアルウェア向けも動きあり。向こう3カ月の見通し 米国の台風被害による綿花の高騰がコストに反映され収益が厳しい。反面、リスク品の多重ガーゼ、レーヨン、レーヨン複合素材の動きが出てきた。国産ものはウール素材に受注有。

(繊維部会)  
(繊維卸)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成28年7月~9月 に比べて	前期比 平成29年4月~6月 に比べて	来期見通し 平成29年10月~12月 の見通し
①生産額・売上額	-38.5	-15.4	-15.4
②製品・商品在庫	-38.5	-38.5	-15.4
③資金繰り	-23.1	-15.4	-15.4
④採算(収益)	-23.1	-15.4	-15.4
⑤従業員数(含む臨時・パート)	7.7	-7.7	-15.4
⑥貴社の業況(総合判断)	-30.8	-23.1	-23.1



<業況判断DIの推移>

	10~12月	H29.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	27.3	-55.6	6.7	-15.4	-15.4
収益	9.1	-11.1	-20.0	-15.4	-15.4
総合	9.1	-22.2	-20.0	-23.1	-23.1

**小売業**

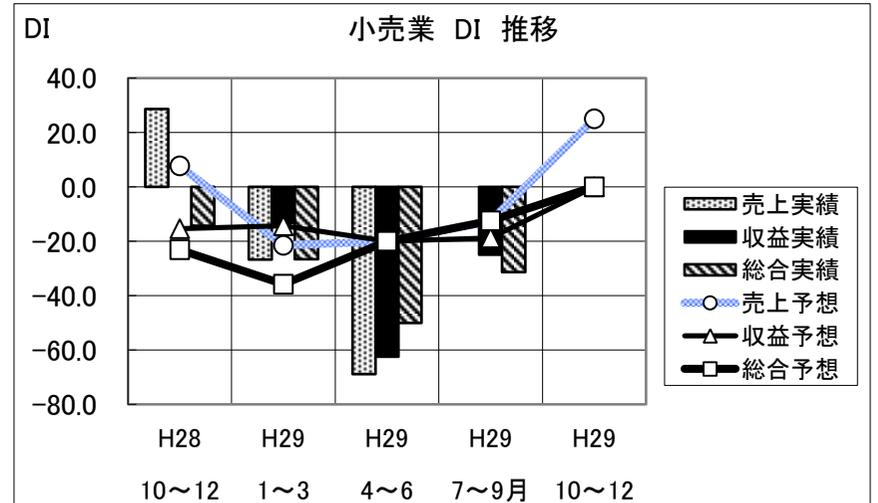
売上DI値は0.0、前期実績4~6月期(△68.8)に比して68.8ポイントの上昇。収益DI値は△25.0、前期実績4~6月期(△62.5)に比して37.5ポイントの上昇、総合判断DI値は△31.3、前期実績4~6月期(△50.0)に比して18.7ポイントの上昇と、売上は横バイ、収益・総合はDI値は上昇しているものの水面下の状況。高価格帯商品の荷動きが鈍い。

向こう3カ月の見通し 消費意欲の停滞は続くが、年末商戦に向けて期待をしている。天候不順による生鮮食品等の値動きが懸念材料。(商業部会)

**小売業**

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成28年7月~9月 に比べて	前期比 平成29年4月~6月 に比べて	来期見通し 平成29年10月~12月 の見通し
①生産額・売上額	-6.2	0.0	25.0
②製品・商品在庫	-12.5	-12.5	-6.2
③資金繰り	-18.8	-18.8	6.2
④採算(収益)	-31.3	-25.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	6.2	-6.2	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-31.2	-31.3	0.0



<業況判断DIの推移>

	10~12月	H29.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	28.6	-26.7	-68.8	0.0	25.0
収益	0.0	-13.3	-62.5	-25.0	0.0
総合	-14.3	-26.6	-50.0	-31.3	0.0

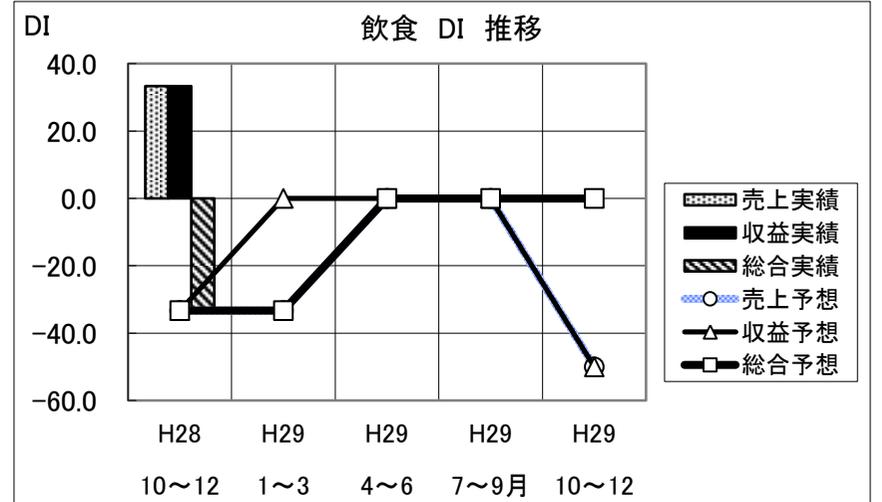
## [飲食]

状況的にあまり変化はなく、横ばい状態が続く。ランチはある程度利用頂けるが、夜のお客様は予約客が大半で小グループでの利用が多い。地元の飲食店を利用いただけることは、大変ありがたい。向こう3カ月の見通し 全体的にはあまり大きな変化はないと思っている。忘年会に関しては、本格的な予約はこれからだと思っているが、例年並みの利用は期待している。(蒲郡市飲食業環境衛生組合連合会)

### (飲食)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成28年7月～9月 に比べて	前期比 平成29年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成29年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	50.0	0.0	-50.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	50.0	0.0	-50.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	0.0	0.0



#### <業況判断DIの推移>

	10～12月	H29.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
売上	33.3	0.0	0.0	0.0	-50.0
収益	33.3	0.0	0.0	0.0	-50.0
総合	-33.3	0.0	0.0	0.0	0.0

## [石油等その他小売]

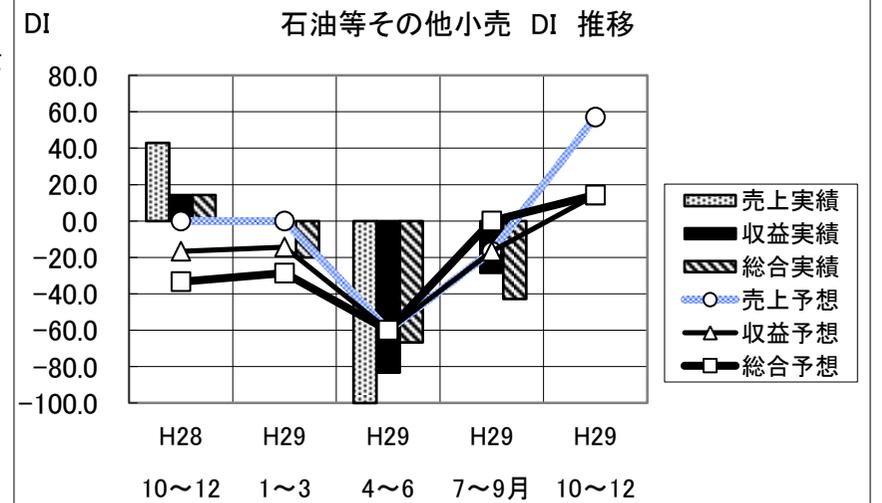
原油価格は、OPEC協調減産や中東の地政学リスク等が下支え要因となり、小幅ながら需要が供給を上回ったこともあって変動は少なく50ドル台を中心に推移した。

向こう3カ月の見通し 11月にはOPEC総会が開催されるが協調減産は着実に守られており、米国シェールオイルのリグ稼働数も減少傾向にある事から、原油価格は50ドル台で推移する見込み。(エネルギー部会)

### (石油等その他小売)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成28年7月～9月 に比べて	前期比 平成29年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成29年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-14.3	0.0	57.1
②製品・商品在庫	-14.3	-14.3	0.0
③資金繰り	-28.6	-28.6	0.0
④採算(収益)	-57.1	-28.6	14.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	14.3	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-42.9	-42.9	14.3



#### <業況判断DIの推移>

	10～12月	H29.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
売上	42.9	0.0	-100.0	0.0	57.1
収益	14.3	0.0	-83.3	-28.6	14.3
総合	14.3	-20.0	-66.7	-42.9	14.3

## サービス業

売上DI値は0.0、前期実績4～6月期(△30.0)に比して30.0ポイントの上昇、収益DI値は12.5、前期実績4～6月期(△18.2)に比して30.7ポイントの上昇、総合判断DI値は0.0、前期実績4～6月期(0.0)に比して横バイと、売上・収益は上昇、総合は横バイとなった。

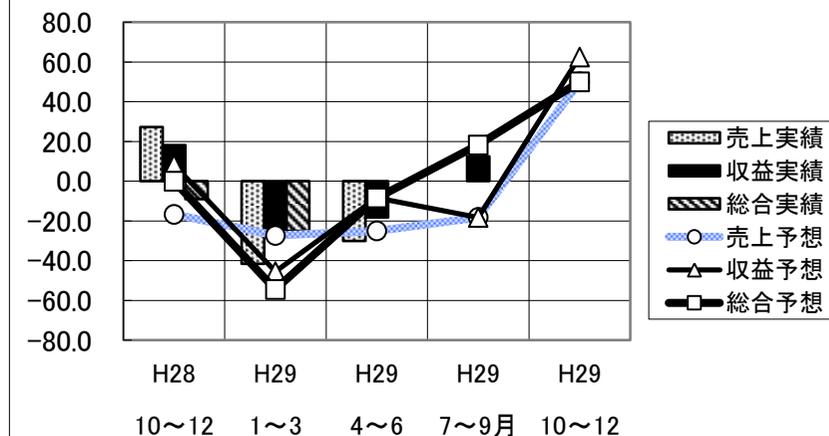
向こう3カ月の見通し 年末の需要期を迎えるにあたり、売上・収益・総合ともに上昇・改善の見通しとなっている。

### サービス業

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成28年7月～9月 に比べて	前期比 平成29年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成29年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-12.5	0.0	50.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	12.5	25.0	37.5
④採算(収益)	12.5	12.5	62.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-12.5	-12.5	37.5
⑥貴社の業況(総合判断)	12.5	0.0	50.0

### サービス業 DI 推移



#### <業況判断DIの推移>

	10~12月	H29.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	27.2	-41.6	-30.0	0.0	50.0
収益	18.2	-25.0	-18.2	12.5	62.5
総合	-9.1	-25.0	0.0	0.0	50.0

## [旅館]

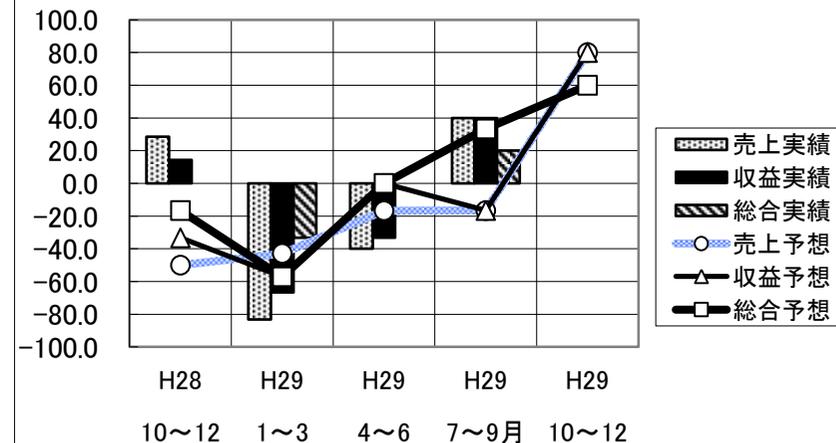
7～9月の宿泊者数は、インバウンドの減少を国内旅行が増加する形で概ね前年並み。インバウンドは中国からの団体客の落ち着きと個人型へのシフト(FIT化)が要因。日本人宿泊数の増加は、大河ドラマ「直虎 大河ドラマ記念館」をコースに組み込んだ商品など関東・関西からの誘客が功を奏した。7月のテザー級ヨットレースは関係者など多くの方が旅館に宿泊して頂き、ヨット＝蒲郡のイメージ発信ができた。ラグーナテンボスの「変なホテル」が盛況だが、特色を活かして旅館との相乗効果を図りたい。向こう3カ月の見通し 平成30年秋季にはJR東海の大型キャンペーン(愛知DC)があり、今年10月に関係者が訪れるエクスカッションがある。インバウンドではタイ・台湾・香港・インドネシア・シンガポールなども強化したい。7月に続く10月のセーリングワールドカップは未来へ繋がる事業。7年目を迎えるみかわdeオンパクも通年プログラムを増やしたり、多言語化を検討するなど事業の進化に協力していきたい。忘年会については、例年並みの実績は挙げられるように努める。(観光部会)

### (旅館)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成28年7月～9月 に比べて	前期比 平成29年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成29年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	40.0	80.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	20.0	40.0	60.0
④採算(収益)	40.0	40.0	80.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	-20.0	20.0
⑥貴社の業況(総合判断)	40.0	20.0	60.0

### 旅館 DI 推移



#### <業況判断DIの推移>

	10~12月	H29.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	28.5	-83.3	-40.0	40.0	80.0
収益	14.3	-66.7	-33.3	40.0	80.0
総合	0.0	-33.3	0.0	20.0	60.0

## 運輸通信業

売上DI値は50.0、前期実績4～6月期(△25.0)に比して75.0ポイントの上昇、収益DI値は12.5、前期実績4～6月期(△25.0)に比して37.5ポイントの上昇、総合判断DI値は25.0、前期実績4～6月期(△12.5)に対して37.5ポイントの上昇と、売上・収益・総合ともに上昇となった。

向こう3カ月の見通し 総合は横バイも、売上・収益は上昇する見通しである。

### 運輸通信業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成28年7月～9月 に比べて	前期比 平成29年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成29年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	50.0	50.0	37.5
②製品・商品在庫	12.5	12.5	12.5
③資金繰り	12.5	12.5	0.0
④採算(収益)	0.0	12.5	12.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	25.0	25.0	12.5
⑥貴社の業況(総合判断)	25.0	25.0	0.0

### [旅客・貨物輸送・水運]

<旅客> 貸切バスは前年並みに稼働。バスツアーは減少傾向にあり、マイカー利用でのホテル予約などが増加傾向。向こう3カ月の見通し 行楽トップシーズンになり、貸切バスは順調に稼働予測。バスツアーも日帰りツアーが相変わらず人気でほぼ前年並みの予約状況。

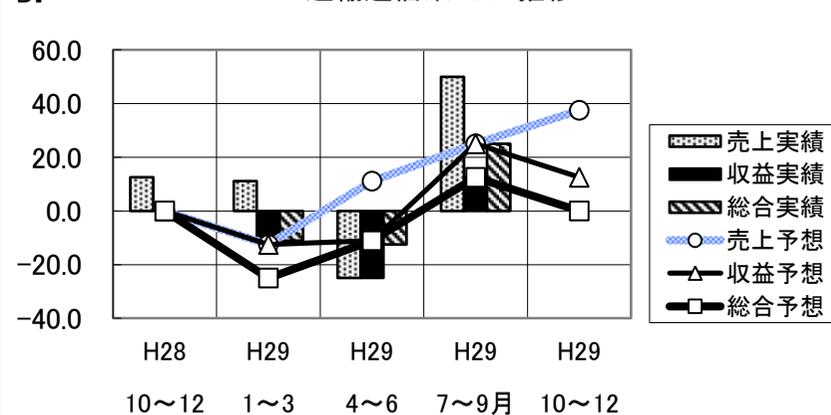
<貨物輸送> 完成車輸出は月間平均10,000台と好調。鋼材移入・海上コンテナ貨物輸出も堅調。向こう3カ月の見通し 完成車輸出は月間平均10,000台を超える見込み。その他業務も堅調に推移する見込み。(運輸交通港湾部会)

### (旅客・貨物輸送・水運)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成28年7月～9月 に比べて	前期比 平成29年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成29年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	42.8	57.1	42.9
②製品・商品在庫	14.3	14.3	14.3
③資金繰り	14.3	14.3	0.0
④採算(収益)	14.3	14.3	14.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	28.6	28.6	14.3
⑥貴社の業況(総合判断)	28.5	28.6	0.0

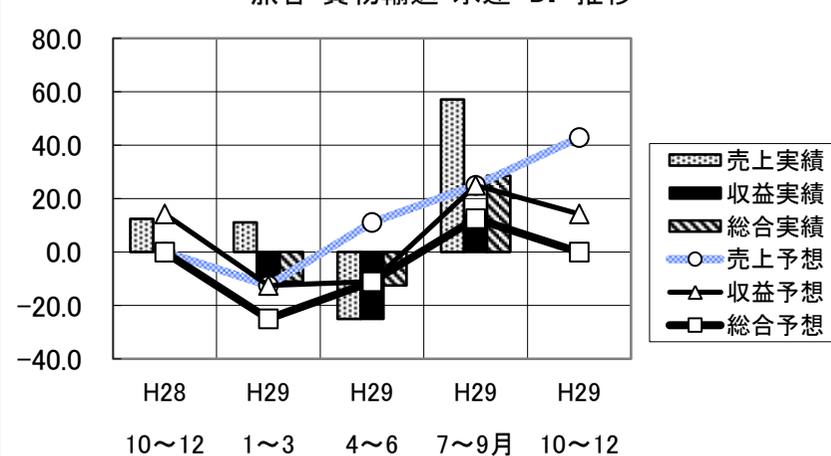
### DI 運輸通信業 DI 推移



### <業況判断DIの推移>

	10～12月	H29.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
売上	12.5	11.1	-25.0	50.0	37.5
収益	0.0	-11.1	-25.0	12.5	12.5
総合	0.0	-11.1	-12.5	25.0	0.0

### DI 旅客・貨物輸送・水運 DI 推移

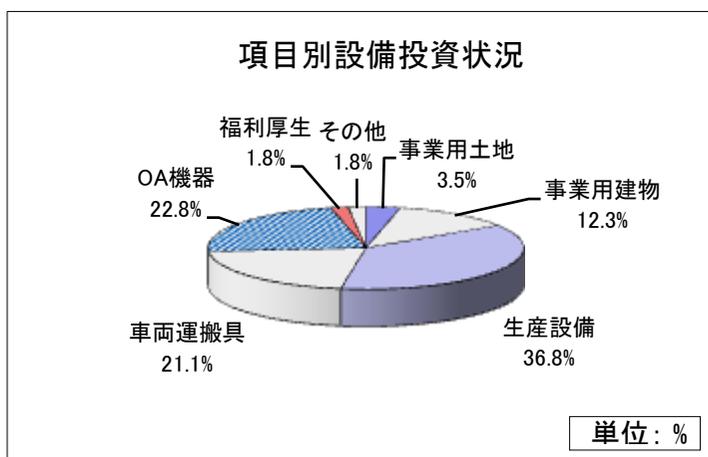
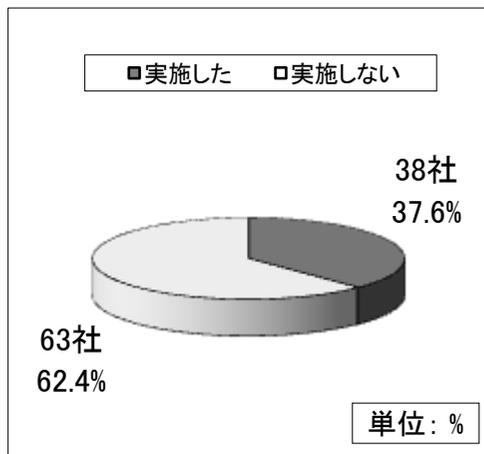


### <業況判断DIの推移>

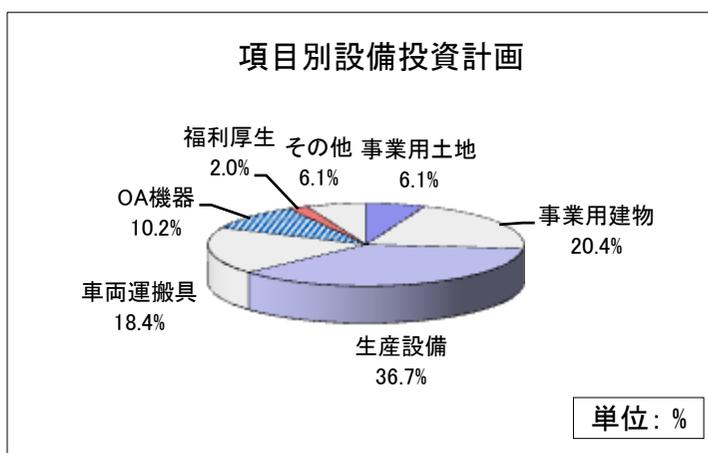
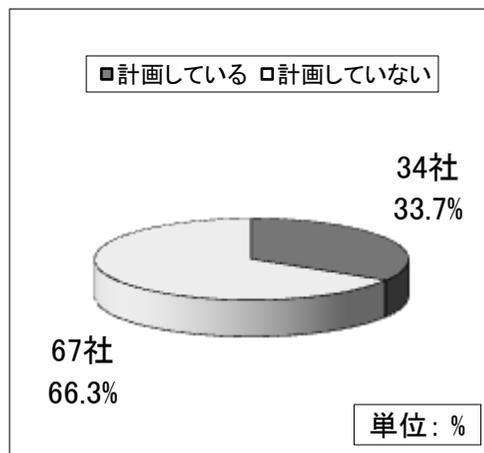
	10～12月	H29.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
売上	12.5	11.1	-25.0	57.1	42.9
収益	0.0	-11.1	-25.0	14.3	14.3
総合	0.0	-11.1	-12.5	28.6	0.0

## 7. 設備投資動向

＜今期(H29. 7～9月)設備投資実施状況 全業種＞



＜来期(H29. 10～12月)設備計画 全業種＞



◎設備投資・計画内容(全業種)

	今 期	来期見通し
事業用土地	2	3
事業用建物	7	10
生産設備	21	18
車両運搬具	12	9
OA機器	13	5
福利厚生	1	1
その他	1	3
計	57	49

(単位: 件)

◎今期(H29.7～9月)、来期(H29.10～12月)設備投資実施、計画動向

	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業
1. 今期 (H29. 7～9月)	38	21	3	1	4	3	6
2. 来期 (H29. 10～12月)	34	18	2	0	4	5	5

(単位: 事業所)

## 8. 経営上の問題点

### 項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 101 社)

	項目	件数 %
1	売上の停滞・減少	50 49.5%
2	利幅の縮小	45 44.6%
3	人手不足	37 36.6%
4	競争激化	27 26.7%
5	原材料(燃料)高	23 22.8%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

### 業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1 位	2 位	3 位
製造業 45 社	売上の停滞・減少 22 社 48.9%	利幅の縮小 19 社 42.2%	工場機械店舗の狭小・老朽化 15 社 33.3%
建設業 10 社	売上の停滞・減少 6 社 60.0%	人件費の増加 6 社 60.0%	利幅の縮小 5 社 50.0%
卸売業 14 社	売上の停滞・減少 9 社 64.3%	利幅の縮小 6 社 42.9%	原材料(燃料)高 5 社 35.7%
小売業 16 社	利幅の縮小 9 社 56.3%	競争激化 8 社 50.0%	売上の停滞・減少 7 社 43.8%
サービス業 8 社	人手不足 7 社 87.5%	売上の停滞・減少 4 社 50.0%	利幅の縮小 2 社 25.0%
運輸通信業 8 社	人手不足 6 社 75.0%	利幅の縮小 4 社 50.0%	工場機械店舗の狭小・老朽化 3 社 37.5%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

# 付帯調査(地域データ)

No.76

番号	調査項目	単位	H29. 11報告	基準日	H29. 8報告	基準日	H29. 5報告	基準日	H29. 2報告	基準日	出典
1	人口	人	80,630	H29.10.1	80,611	H29.6.1	80,703	H29.3.1	80,886	H29.1.1	蒲郡市市民課 住民基本台帳
	(うち外国人)		2,634		2,556		2,509		2,506		
2	世帯数	世帯	31,871	H29.10.1	31,749	H29.6.1	31,614	H29.3.1	31,595	H29.1.1	"
	(うち外国人)		1,264		1,202		1,168		1,175		
3	15才～65才生産人口	人	48,513	H29.10.1	48,500	H29.6.1	48,794	H29.3.1	48,853	H29.1.1	"
	(うち外国人)		2,182		2,110		2,097		2,079		
4	建築確認届出件数	件	/	/	/	/	115	H28.12月～H29.2月	132	H28.9月～11月	蒲郡市建築住宅課 受付件数 (建物の新築および増築の合計件数)
5	全国完全失業率	%	2.7	H29.6月	2.8	H29.3月	3.1	H28.12月	3.0	H28.9月	総務省 「労働力調査」
	愛知県完全失業率	%	2.7	H29.4月～6月	2.5	H29.1月～3月	2.4	H28.10月～12月	2.1	H28.7月～9月	愛知県 「労働力調査地方集計結果」
6	全国有効求人倍率	倍	1.52	H29.8月	1.51	H29.6月	1.45	H29.3月	1.43	H28.12月	厚生労働省 「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	1.04	H29.8月	1.06	H29.5月	1.02	H29.2月	1.02	H28.11月	豊川公共職業安定所蒲郡出張所 業務月報より

全国データ

	労働			設備投資・住宅投資		GDP・景気動向指数		消費	
	完全失業者数 (万人)	完全失業率 (季調・%)	有効求人倍率 (季調・倍)	機械受注 (船舶電力除)前年同月比(%)	新設住宅着工 (戸数)	名目国内総生産 (兆円)	実質成長率 実質季節調整系列(前期比)	消費支出 前年同月比(実質)	新車販売台数(登録車) (万台)
1996年度	225	3.3	0.72	11.4	1,630,378	515.9		1.0	-
1997年度	236	3.5	0.69	▲ 3.9	1,341,347	521.2		▲ 0.2	-
1998年度	294	4.3	0.50	▲ 18.6	1,179,536	510.9		▲ 0.8	-
1999年度	320	4.7	0.49	0.6	1,226,207	506.5		▲ 1.8	-
2000年度	320	4.7	0.59	16.6	1,213,157	510.8		▲ 1.2	-
2001年度	340	5.0	0.59	▲ 12.6	1,173,170	501.7		▲ 3.4	405.9
2002年度	359	5.4	0.54	▲ 3.7	1,145,553	498.0		▲ 0.6	396.6
2003年度	350	5.3	0.64	8.2	1,173,649	501.8		▲ 0.2	402.7
2004年度	313	4.7	0.83	6.5	1,193,038	502.7		0.4	396.2
2005年度	294	4.4	0.95	5.6	1,249,366	505.3		▲ 0.4	392.8
2006年度	275	4.1	1.06	2.0	1,285,246	509.1		▲ 2.2	371.5
2007年度	257	3.9	1.04	0.7	1,035,598	513.0		0.9	342.8
2008年度	265	4.0	0.88	▲ 5.7	1,039,214	489.5		▲ 1.9	321.2
2009年度	336	5.1	0.47	▲ 28.5	775,277	473.9		▲ 0.2	292.1
2010年度	334	5.1	0.52	18.7	819,020	480.5		▲ 0.5	322.9
2011年度	284	4.5	0.65	6.8	841,246	474.1		▲ 2.5	303.1
2012年度	285	4.3	0.80	▲ 4.3	893,002	482.4		1.1	323.7
2013年度	265	4.0	0.93	7.9	987,254	489.6		1.5	343.0
2014年1月	238	3.7	1.04	22.6	77,843			1.1	29.2
(平成26年)2月	232	3.6	1.05	16.1	69,689	127.4	1.1	▲ 2.5	33.6
3月	246	3.6	1.07	1.1	69,411			7.2	48.1
4月	254	3.6	1.08	46.1	75,286			▲ 4.6	18.8
5月	242	3.5	1.09	▲ 1.4	67,791	126.6	▲ 1.9	▲ 8.0	20.6
6月	245	3.7	1.10	15.5	75,757			▲ 3.0	26.5
7月	248	3.8	1.10	8.4	72,880			▲ 5.9	28.5
8月	231	3.5	1.10	0.3	73,771	124.9	▲ 0.1	▲ 4.7	20.6
9月	233	3.6	1.09	▲ 1.2	75,882			▲ 5.6	31.5
10月	233	3.5	1.10	▲ 1.6	79,171			▲ 4.0	24.0
11月	219	3.5	1.12	▲ 5.1	78,364	134.7	0.7	▲ 2.5	23.9
12月	210	3.4	1.15	1.9	76,416			▲ 3.4	23.1
2015年1月	231	3.6	1.14	11.2	67,713			▲ 5.1	23.7
(平成27年)2月	226	3.5	1.15	16.5	67,552	131.4	1.1	▲ 3.3	28.8
3月	228	3.4	1.15	9.8	69,887			▲ 9.6	41.8
4月	234	3.3	1.17	▲ 18.7	75,617			1.4	19.8
5月	224	3.3	1.19	0.4	71,720	130.7	0.0	4.8	20.9
6月	224	3.4	1.19	0.3	88,118			▲ 2.0	27.9
7月	222	3.3	1.21	1.0	78,263			▲ 0.2	28.2
8月	225	3.4	1.23	▲ 5.8	80,255	129.7	0.2	2.9	21.1
9月	227	3.4	1.24	▲ 0.3	77,872			▲ 0.4	30.5
10月	208	3.1	1.24	12.2	77,153			▲ 2.4	24.0
11月	209	3.3	1.25	▲ 0.8	79,697	138.0	▲ 0.2	▲ 2.9	23.9
12月	204	3.3	1.27	0.3	75,452			▲ 4.4	23.9
2016年1月	211	3.2	1.28	▲ 11.3	67,815			▲ 3.1	23.7
(平成28年)2月	213	3.3	1.28	▲ 6.7	72,831	133.2	0.5	1.2	27.5
3月	216	3.2	1.30	9.8	75,744			▲ 5.3	40.4
4月	224	3.2	1.34	▲ 1.1	82,398			▲ 0.4	21.2
5月	216	3.2	1.36	▲ 7.3	78,728	132.4	0.5	▲ 1.1	22.3
6月	210	3.2	1.37	1.3	85,953			▲ 2.2	28.7
7月	203	3.1	1.37	▲ 4.2	85,208			▲ 0.5	28.1
8月	212	3.1	1.37	0.2	82,242	130.9	0.2	▲ 4.6	22.3
9月	204	3.0	1.38	▲ 4.5	85,622			▲ 2.1	31.7
10月	195	3.0	1.40	▲ 10.9	87,707			▲ 0.4	24.2
11月	197	3.1	1.41	24.5	85,051	140.2	0.4	▲ 1.5	27.3
12月	193	3.1	1.43	17.3	78,406			▲ 0.3	26.4
2017年1月	197	3.0	1.43	10.7	76,491			▲ 1.2	25.8
(平成28年)2月	188	2.8	1.43	▲ 0.7	70,912	134.2	0.3	▲ 3.8	31.2
3月	188	2.8	1.45	▲ 12.5	75,887			▲ 1.3	46.0
4月	197	2.8	1.48	▲ 0.2	83,979			▲ 1.4	22.4
5月	210	3.1	1.49	8.6	78,481	133.7	0.6	▲ 0.1	23.7
6月	192	2.8	1.51	3.4	87,456			2.3	31.5
7月	191	2.8	1.52	10.5	83,234			▲ 0.2	27.8
8月	189	2.8	1.52	19.7	80,562				23.3
9月									31.8
10月									23.1

(内閣府)

(国土交通省)

(内閣府)

(総務省)

(自販連統計)

※ 統計により、岩手・宮城・福島を除くものもございます。